

# 全国司法書士女性会FAX通信309号 (2019年4月号)

発行責任者 会長 鷗川 智子  
事務局 〒569-1117 大阪府高槻市天神町1-8-2寺本ビル2階  
司法書士 鷗川智子 fax 072-683-8305  
e-mail [takatsuki@office-ukawa.jp](mailto:takatsuki@office-ukawa.jp)  
HP <http://shihosyoshi-joseikai.com/>

## 私と未成年後見とのかかわり

司法書士女性会 理事 布田日斗美 (秋田県司法書士会)

公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート (以下リーガルサポートという。)の未成年後見準備検討委員に就任して2期目になる。リーガルサポートの定款が変更されたが、公益社団法人であるため認定委員会に認めてもらわないと定款が変更されない。きちんと変更が認められてから事業を行いたいという考えのもと、いつ変更になっても対応できるようにと、未成年後見準備検討委員会ができ、未成年後見に対応するための規程の見直しや、施設の訪問、施設へのアンケート調査と、その分析結果を「実践成年後見」に掲載していただいたりしている。

日本司法書士会連合会の後見対策部未成年ワーキングチームの部委員も兼ねさせていただいており、未成年後見の研修会の企画や運営を行ったり、会員に対してアンケート調査を行い、その結果をまとめたり、ハンドブックの作成の準備もしている。

私と未成年後見のかかわりについてお話すると、正直就任するまで未成年後見人という仕事があることを知らなかった。娘がいるので、子育ての経験そのものが役に立つというまれな仕事であった。ただし子育ての経験がないと就任できないかといえばそれはないと考える。子どものいない知人の司法書士は、学校行事に参加することを楽しみながら、未成年後見の仕事をしている。

私が最初に引き受けた案件は、離婚した父親と暮らしていたが、父親が病気で亡くなり、保険金の受取のために母親が親権者になることを望まず、未成年本人が親族を未成年後見人と申し立てた案件の未成年後見監督の仕事であった。

東日本大震災で未成年後見人を必要とする子供たちが増加した。司法書士会の東北ブロックに未成年後見ワーキングチームが立ち上がった。実はその少し前私が未成年後見人に就任した未成年が津波の被災者だった。その後私は東北ブロックの未成年後見ワーキングチームのメンバーになった。その縁で現在リーガルサポートの未成年後見準備検討委員に就任している。

成年後見と未成年後見は似ている部分も確かに多いが、実は異なることも多い。未成年後見制度にどのような問題点があるかを少しお話したいと思う。まず民法第914条の問題である。特に同居していない財産管理権のみの専門職未成年後見人に対しては、責任限定制度等の採用が望まれる。

次に戸籍制度についてである。戸籍の筆頭者ではない女性司法書士は未成年と全く関係のない夫の名前が自分が就任した未成年の戸籍に記載されてしまう。今後親権停止案件等専門職が未成年後見人に就任する事案も増えると思われるが、成年後見同様戸籍制度から登記制度への変更を要望したい。戸籍に後見人が記載されることで、未成年や親族にも心的抵抗があると思われる。

最後に金融機関の対応である。成年後見制度ができた当初そうであったように、未成年後見制度そのものに対する理解が不十分である。高校を卒業して18歳くらいで働いている未成年は普通に金融機関に口座を作って給与を受領し、そのお金を本人が使用しているので、口座を作るときに戸籍謄本まで要求されていない以上、その未成年に後見人がついているかどうか、わからないというのが金融機関の言い分である。そのため未成年後見付きの口座そのものが開設できない金融機関がある。前向きに検討し、審判どおり運用できるように、特例で口座を開設したり、代理人付の口座で代用してくれたり、協力的な金融機関もあるが、未成年の財産保護のためにも統一的な取り扱いをしてくれるよう改善を提言したい。また複数後見が未成年後見で可能になったが、未成年後見人の共同代理に対応してくれない金融機関もあり、苦慮した。

私が未成年後見監督人に就任していた未成年は、大学2年生の時に成人し、多額の財産を多少の不安を感じながら引き渡した。成人後多額の財産を1年で使い果たしたという例を聞いたことがあるが、実は本人も不安に思っているので、せめて学生の間だけでも支援する制度がないものかと今も思っている。

今回司法書士女性会の通信で未成年後見について述べる機会をいただいたことに感謝している。

## 金武絵美子先生が住むカンボジアを訪ねて

～アンコールワットとアンコールトムの素晴らしさ～

司法書士女性会 理事 布田日斗美（秋田県司法書士会）

金武先生と知り合ったのは2年前になる。女性会の研修で京都に行った折、お会いした大学の先生がカンボジアに行ったときに女性司法書士に会ったという話を聞いた。札幌で司法書士をしている弟の里村が東日本大震災の日にカンボジアにいて、金武先生という女性司法書士といっしょだったという話をその時思い出した。東日本大震災が発生した時、金武先生はJICA長期専門家で、日本司法書士会連合会は司法省のJICA法整備支援プロジェクトに協力していたそうだった。当時カンボジアでは不動産登記共同省令、法人登記省令、夫婦財産契約登記省令を起草中で、セミナーを開催し、起草メンバーである司法省および国土省職員に対し、日本司法書士会連合会の役員等の司法書士が不動産登記等に関連する民法と民事訴訟法の講義をし、条文案へのアドバイスをするためカンボジアを訪れていた。金武先生は「東日本大震災の際、当時の司法省と国土省の起草班メンバーたちはなげなしの給与から、自分たちの生活を顧みずに寄付してくれた。この時の彼らに対する感謝の気持ちが、私がカンボジアで頑張れる原動力の一つになっている。」と話してくれた。今回この旅行記を書くにあたり、金武先生からこの話を聞いて、カンボジアの人々の心の暖かさとそれに答える金武先生の感謝の気持ちに私は強く心を動かされた。

私は弟の紹介で金武先生と知り合い、彼女は女性会の研修会の講師をするため一時帰国して、一昨年は札幌、昨年は大分で「カンボジア王国法的制度整備支援」について話をしてくれた。女性司法書士として私は金武先生のことを誇りに思うと同時に彼女の住むカンボジアを訪ねてみたくなった。

司法書士女性会の有志4人でカンボジアを訪ねるつもりでいたが、諸事情で延期になった。偶然秋田空港からシェムリアップ（アンコールワットに最も近いカンボジアの空港のある町）へチャーター便が飛ぶことを知り、思い切ってアンコールワットに行くことにした。

前もって金武先生にはメールをして、いろいろ情報をいただいた。

最初に驚いたのは流通している通貨がアメリカドルだということだった。リエルという現地通貨があるが1アメリカドルが4000リエルでリエル札はコインの代わりに使われていた。実際1ドル以下の商品をスーパーマーケットで買ったならリエルでおつりがきた。

ホテルや免税店以外カードが使えないこと。金武先生はホテルでスキミングされたそうで、それを聞けば使わないのが一番かなと思った。

金武先生のおすすめのお土産としてこしょうとタマリンドクッキー、やし砂糖を教えていただいた。

アンコールワットやアンコールトム他にベンメリアの遺跡に行ってきたが、ここは金武先生のお気に入りの遺跡で、地雷が撤去されていない地域があり、ドクロマークの看板があったらそこは地雷エリアだということを教わった。

ベンメリアへ行く道中、露店がたくさん並んでいるところがあった。そこではクロランという竹の筒の中にもち米とココナッツミルクと砂糖と小豆をいれて蒸し焼きにしたものが売られていた。現地の人はもちろん金武先生も大好きだそう。バスの窓から露店を見たが、団体行動だったので残念ながらバスを止めて購入することはできず残念だった。

## ●2019年2月9日（土）

秋田空港は猛吹雪。羽田空港も雪で羽田便は欠航。秋田空港に9時15分集合であったが、まだスカイアンコール航空の飛行機は到着していない。南国のパイロットが雪の秋田空港に着陸できるのかかなり心配。秋田空港の出国は私たち89名の団体旅行者だけだったので、何ともスムーズだった。160人乗りの飛行機に89名なので差席もゆとりがあり、小さめの飛行機だったがとても楽だった。オーディオやビデオの装置がないがその分よく眠れた。4時間あまりで台湾の高雄空港着。給油に約2時間かかる。給油後シェムリアップへ。ちょうど春節の時期だったので空港は中国人がいっぱいだった。夕食はレストランでカンボジア料理を食べ、バスの中でホテルのカギを渡され、到着後ホテルの部屋へ。ソカシェムリアップリゾート&コンベンションセンターに泊まる。とても立派なホテル。玄関に春節の日本のお正月に飾る繭玉のような飾りが飾ってあった。時差は2時間。

## ●2019年2月10日（日）

ホテルで朝食後アンコールトム遺跡へ。アンコールトムは12世紀後半ジャ

ンバルマン7世によって建立された。一辺約3キロメートルからなるお堀と高さ8メートルの城壁で囲まれた「大きな街」という意味を持つ城塞都市。以下の場所を見学

1. ① 南大門（門の上部には四面を向いた仏顔、下部には3つの顔を持つ象が刻まれている。アンコールトムの5つの門の中では一番美しいと言われている。）
2. ② 第一回廊（クメールの人々の当時の生活風景やチャンパ軍との戦いの場面がレリーフとして残っている。）
3. ③ 象のテラス（3.5メートルから4メートルの壁画には象や神鳥ガルダの彫刻があしらわれている。中央側壁を支えるのはライオンとガルダが一体化した聖獣ガジャシント）アンコールトムの中で私が一番気に入った場所である。
4. ④ ライ王のテラス（ライ王像が安置されていたことで知られる石段状の遺跡。高さ6メートル、壁は2重になっていて、内部には数多くの神像彫刻が残されている。ただしここで見られるライ王像はレプリカ。本物はプノンペン国立博物館にある。三島由紀夫が戯曲の舞台としている。）
5. ⑤ バイヨン寺院（宗教は仏教でバイヨン様式。四面仏は49塔（196面）ある。中央祠堂にある四面仏像の観世音菩薩は「クメールの微笑み」と呼ばれ、遺跡を代表するみどころとなっている。京歌子さんによく似た仏像があった。）

次にタ・ブローム遺跡を訪れた。（1186年ジャヤバルマン7世によって建立された仏教の寺院でバイヨン様式である。ジャヤバルマン7世は母親の菩提を弔うために建立した。ほとんど修復されないままのためスポアの巨大な根が建物を破壊し、遺跡全体が密林に埋もれてしまっている。他の遺跡にはない神秘性が感じられる。映画「トゥームレーダー」でアンジェリナ・ジョリーが、血管の様な根っこの絡み合う遺跡の中から現れるシーンの撮影地。その場所でたくさんの観光客が記念写真を撮っていた。遺跡をすっぽり覆ってしまう巨大な根っこに植物の力のすごさを感じた。）

その後カンボジア民芸店で買物をし、中華料理店でランチ食べ、ホテルに戻ってお昼寝タイム。カンボジアは乾季で日中はとても暑くみんな休むらしい。（シェムリアップは34度・秋田は-5度）

午後からアンコールワット遺跡を訪ねる。アンコールワットは12世紀中ごろスリーヤバルマン2世によって建立されたアンコールワット様式のヒンドゥー教の寺院である。現在は仏教寺院になっている。例外的に正面が西を向いているので、戦没者の慰霊の寺か、もしくは王墓であると考えられている。東西1500メートル、南北1300メートル、幅200メートル周囲5600メートルのお堀で囲まれた寺院。参道、回廊、5つの塔からなる。9世紀から15世紀にかけてインドシナ半島を制圧したクメール王朝の首都跡。1860年フランスの博物学者アンリ・ムオが、現地の動植物の調査のため、熱帯雨林の中をさまよっていた時に、アンコールワットを発見した。その神々しい光景に、彼は幻を見ているのかと思ったと伝えられている。現在お堀にかかる橋は日本の企業が修復中で横に浮の仮橋が作られていた。この浮の橋が現地の人々にはとても人気だそう。参道入口から本堂入口までの参道はナーガの欄干が続く。ショムリアップの橋の欄干は遺跡も新しい橋もみな9つの頭を持つと言われていたナーガになっている。アンコールワットの中では私はこのナーガの欄干がとても気に入っている。そろばんのような連子窓が多く見られる。以下の場所

を見学。

1. ① 第一回廊（アンコールワット最大の見所。壁面には数々のレリーフが全体を覆いつくし、天地創生神話を描いた「乳海攪拌」や「軍隊の行進」など長編絵巻のような世界が楽しめる。）
2. ② 第三回廊（外側の壁にレリーフがある。）
3. ③ 中央祠堂（神との交信の場所と考えられている。）
4. ④ 十字回廊（1632年江戸時代初期、アンコールワットにやってきた森本右近大夫の墨で書いた漢字が今でも残っている。彼は父の菩提を弔うためにこの地を訪れ、仏像4体を奉納したが、彼はアンコールワットを祇園精舎と思い込んでいた。）

夕方プレ・ループ（961年ラージェンドラヴァルマン1世によって建立。ヒンドゥー教の寺院。プレ・ループとは体を裏返しにするとの意味で火葬儀が行われていた寺院であると言われている。中央祠堂からの眺めは最高。）で夕日鑑賞後デュフェのスタイルの夕食を食べながら、アプラサラダンス（ルーツはジャワやインド舞踊にあり、アンコール王朝初期の9世紀にはすでに宮廷で舞われていたと言われている。）を鑑賞した。

#### ●2019年2月11日（月）

午前5時暗いうちにホテルを出発。アンコールワットへ向かう。朝日を浴びるアンコールワットを見るために。なんとも神々しい風景であった。この季節はアンコールワットに向かって右側に朝日が見えた。ホテルに戻って朝食を食べ天空の城ラピュタのモデルとなったベンメリア遺跡へ向かった。（密林に眠るヒンドゥー教の巨大寺院遺跡。まだ修復されず発見された当時のまま。建築様式に類似点が多いため、アンコールワットの試作品とも言われている。かなり地雷は撤去されていた。木がこれほどまで遺跡を破壊するのかと自然の力にとっても驚いた。遊歩道が整備されている。）

ランチはタイスキ。とてもおいしかった。今日もいったんホテルに戻ってお昼寝タイム。

午後トンレサップ湖クルーズへ向かう。トンレサップとはクメール語で淡水湖と川の意味。トンレサップ湖に近づくと高床式の家が増えてくる。この湖は乾季は水深1メートルほどであるが、雨季は10メートルにもなる。湖の面積も12倍になるそうだ。東南アジア最大の湖で水上生活をしている人々がいる。浮の上に家を建て、学校も病院もお店も教会もレストランも湖の上にある。ほとんどの家が一部屋でハンモックで寝ている。電気はない。バッテリーで携帯を充電している。住所がないので携帯の電話番号で郵便は局留めにしてもらい船で取りに行く。水上レストランに上陸。ここではワニを養殖していた。

その後アンコールクッキーの店で買物。あのアンコールワットの形をした有名なクッキーのお店。スーパーマーケットにも行ってみる。夕食はホテルの竹園で和食。まだ日本食が恋しいわけではなかったけれど、みんな喜んで食べていた。

#### ●2019年2月12日（火）

ホテルで朝食後パンテアイスレイ小学校訪問。この小学校訪問は今回の旅行の中でもメインのイベントであると私は思っていた。この地域はやっと2年前

に電気が使用できるようになったばかりだとカンボジア人のガイドさんから聞いた。

あらかじめ各自が不要になった文房具を持ちよりそれを小学校に寄付したのである。私も娘たちの不要となった、えんぴつとノートを寄付させていただいた。合計ダンボール5箱となり、とても喜ばれた。小学校の授業の様子を見学させていただいた。私は4年生のクラスを見学させてもらったが、年齢は9歳から14歳くらいまでの子供がいて、家の事情で遅れて就学する子供もいるそう。

若い女性の先生は自分の子供をベビーカーであやしながら授業をしていた。クメール語はとても難しい。あいうえお表のようなものが教室にはあってあった。

カンボジアはとても若者が多い国である。ポルポト政権時代に知識人が多数殺されたことも影響があると思われるが、子供たちがとても多く、学校の授業は午前組と午後組という2部制になっているそう。子供たちはおそろいの紺のスカート（男子はズボン）に白のシャツを着て、炎天下に外で整列して待っていてくれた。

カンボジアの観光地で少し悲しいことがあった。明らかに小学生と思われる子供たちが、絵葉書やマグネットを観光地で観光客に売っているのである。そして私たちが日本人であることがわかるとその子は一言「貧乏」とつぶやいた。学校に行ける子供と家族のために働かなければならない子供がいることをやるせなく思った。

オールドマーケット近くの市内のレストランで昼食。オールドマーケット散策。ハート型の石鹸とクロマーと呼ばれている綿のマフラーを購入。ドルが足りなくなって交渉したら、値引きしてくれた。コショウ、しおり、グリーンカレーなども購入。

ホテルに一度戻って休息後トゥクトゥクに乗ってアンコール国立博物館へ行く。アンコールワットやアンコールトムにあったレリーフや仏像はここアンコール国立博物館で保存展示されている。

ホテルにもどってパッキングしてホテルを出発。カンボジア料理の夕食を堪能して免税店でワイン2本とリップクリーム、口紅を購入。

午後10時40分空港でチェックイン。偏西風の影響で帰りは給油することなくシェムリアップ空港から秋田空港へダイレクトで無事帰国。

今号は未成年後見に関する研究を続けておられる秋田県会の布田日斗美理事からの寄稿文をお届け致しました。 布田理事 有難うございました。

さて、全国司法書士女性会の次回研修会は、7月熊本にて開催予定です。9月には各士業女性合同研修会が久しぶりに東京で開催の予定。また全国司法書士女性の集い及び総会は10月5日(土)彦根にて開催予定です。詳細が確定次第ご案内申し上げます、是非ご参加ください。